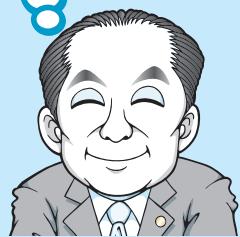


# 町長の一言



文芸しろさと

途中まで読んで「積読」になつて、藤原正彦著「國家の品格」を読み終えました。190頁程の単行本を一気に読了しない不精を恥じているところです。

数学者でもある藤原正彦さんは、著書の中で経済至上主義のようなもののが国家の品格を失墜させた（させる）とした、その理由を述べています。また、すぐに役立たない数学や理論、物理などの底上げされているような社会国家が長期的持続可能な国であり、それぞれが普遍的価値の情緒を持つこと、儒教や武士道に学ぶべきことが数多くあるにもかかわらず失つていることを著しています。中には肯定できないものもありましたが、著書全体は分かり易く読むことができました。

先月、新渡戸稻造の祖父の地である花巻の新渡戸稻造記念館を訪れる機会を得ました。花巻は、宮沢賢治を生んだ地でも

「地域が美しい」ところは、世界的にみても天才が輩出されるとも「国家の品格」に書かれています。新渡戸博士は、1890年に日本人の心を広く世界に知つてもらうために武士道を英文で発表していますが、品格も根底にはそれに相通じるものがあると思います。

そこで、藤原さんが示す品格の指標は何かといふと、①独立不羈②道徳③美しい田園④天才の輩出とあります。これを地域に当てはめてみると、城里町民憲章がそれを言いい表しており、それぞれの町民の方々が具現化を図つていくことによつて、品格ある町が自然と形成されるのではないで、品格ある地域を目指していこうではありませんか。

その条件は備わつていいると思いますので、品

短  
歌

病窓の青空はよし冬木立  
桔梗咲きかるかや女郎花咲く  
花野今日の散歩の折り返し点  
沈みゆく日の大きかり枯野道  
桔尾花雀止まりて掠ひけり  
立冬や松を濡らせる雨細し  
冬ぬくし野菜いきいき緑なり  
五つある縁台赤し冬日和  
露草は野にありてこそ清けり  
黄金の袖の実浮かぶ風呂温し  
萱葺きや大内宿の雪の道  
初日記筆もお屠蘇に酔わされし  
仲田 まちゑ 田所厚子 今瀬多代美子  
飯村愛子 森静江 いそべきよ  
岩下金司 田口勝元 田中欽子  
富田欽子

柚子ばかり光を集め風の午後  
霜溶けて空青々と透き通り 飯田勇一  
病室に笑ひ声あり花八つ手 山崎正行  
鯉淵寿美恵

阿良山　ウメノ  
かきこそと歩道敷きつめ銀杏の葉踏みしめ歩く黄色の通子岩下道子  
しいたけの原木切りの山小道もみじひろいて日記にはさむ鶴田すが  
七五三晴姿して何のまね老いた私の杖ついたまね市川義子  
買い求む年賀ハガキや年越しぬ樂しと言えぬ齡なりしか  
雑草一本抜かずひたすら除草剤散布するのみ休日を息子は薄井ひろ

パソコンのワープロの普及で若者は漢字好きなど「読めても書けず」といふ仏を迎えんと待ちたる十三日祭壇飾りの役は老いわれ全快癒の願ひやまざり日毎に学ぶ詠歌の恩師に在れば夕食の一品となれるシソミ汁自ら取れれば喰声上ぐ曾孫らは朝早くモロヘイヤ摘めばあまた露を宿してひんやりと掌より雪す所美惠子

川柳

川柳  
出るものはお腹お尻に綱引会  
釣り自慢夢じやないかその話  
青木新三郎  
富田多蔵  
圍炉裏にて鍋物囲み温まる

出るものはお腹お尻に綱引会  
釣り自慢夢じやないかその話  
青木 新三郎

圍炉裏にて鍋物囲み温まる  
富田 多蔵

新しい風を迎えて初詣  
山本 隆莊

北野

永井 英陽

雜煮にも赤ネギ入れてこりや  
うまい 中島芳春

子や孫の自慢話のクラス会